

## 令和元年度 第1回練馬区立生涯学習センター運営懇談会 会議要録（概要）

- 1 日時 令和元年8月23日（金） 午後3時～4時45分
- 2 場所 生涯学習センター 第1教室
- 3 出席者 長田委員、井藤委員、川井委員、中島委員、岡本委員、長富委員、田村委員、伊藤委員、鈴木委員、山本委員、菊地委員、押田委員（社会教育主事）  
（練馬区）文化・生涯学習課長  
（事務局）生涯学習センター所長、副所長
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 インターンシップ生2名
- 6 次第
  - (1) 挨拶
  - (2) 議題  
平成30年度事業結果報告について  
令和元年度事業結果報告および事業予定について  
主な事業ごとの目標指数について
  - (3) その他
- 7 配布資料
  - 資料1 平成30・31年度練馬区立生涯学習センター運営懇談会委員名簿
  - 資料2 平成30年度事業結果報告
  - 資料3 平成30年度施設利用実績
  - 資料4 令和元年度事業結果中間報告および事業予定
  - 資料5 令和元年度事業計画
  - 資料6 主な事業ごとの目標指数について
- 8 会議の概要
  - (1) 挨拶  
小沼 寛幸 文化・生涯学習課長挨拶
  - (2) 議題

平成 30 年度事業結果報告  
所長から資料 2 に基づき説明（内容省略）

平成 30 年度施設利用実績  
所長から資料 3 に基づき説明（内容省略）

令和元年度事業結果中間報告および事業予定  
所長から資料 4 に基づき説明（内容省略）

<座長> 報告の内容について、ご質問等ありましたらお願いします。

<委員> 武蔵大学特別履修生制度についてです。私は、この 4 月から 6 月まで聴講生として武蔵大学に通いました。同席した特別履修生の方と話す機会があり、特別履修生はボランティアと関係のある授業しか履修できないと聞きました。履修科目にはどのようなものがあるのでしょうか。

<所長> 武蔵大学の 3 学部（社会学部、人文学部、経済学部）のうち、大学から指定された科目を対象としておりますが、多くの科目があり、幅広い分野から選んでいただくことが可能となっております。日本語教授法という科目の応募者が多いと以前ご紹介させていただいたことがあります。心理学、芸術、歴史、法律など幅広い分野の受講実績があります。学んだことの活かし方は、学んだ方の活躍する分野で異なりますので、区で一定の制限をするということはありません。

<委員> 練馬 E n カレッジ受講者・修了者、ボランティア経験のある方を対象として募集するなかで、要件について誤解があるようです。ボランティア活動につながることを望ましいですが、つながらないものはないとも思います。受講者が迷わないように募集していただけたらと思います。

<座長> 特別履修生制度は学んだことを活かしていく制度として、活用されています。説明文から誤解があるようですが、この説明があるから対象が明確になっている面もあるようです。  
ほかにございませんか。

<副座長> 事業結果を見て、応募者数に対して参加者が少ない事業もあります。そのギャップに対して、手を打つことが必要ではないでしょうか。折角、意欲をもって活動しようとしているわけですから、我々各サークル、団体と区と一緒に検討をし

ていかなければと思います。

<所長> ちらしづくりなど改善の取組みは行っておりますが、事業を行っていくなかで、今ご指摘いただいた事例はございます。皆様のお知恵をいただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

<座長> 我々も事務局にいろいろな意見をだしていきたいと思います。

<委員> 盆踊り講習会に協力しています。ちらしを関係団体に個別に配りました。今年度参加者が増加し、その効果だとすれぱうれしいと思います。アンケート結果を見ると区報を見て参加したという方は60代以上の高齢者に多いようです。区報をあまり読まない方へのPRとして、ツイッター、Facebookなどを検討する必要もあるのではないのでしょうか。

<座長> いまのご発言のとおり自助努力は大事だと思っています。高齢化社会、人生100年時代と言われており、何か探してほしい、みつけてほしいと思い、事業をいかに知っていただく、見ていただけるようにいろいろと努力をしています。

練馬区は人口減少にはなっていません。新たに若い世代の転入が多い地区もあります。地域差はありますが、協力していけたらと思います。

ほかになければ、資料5から説明をお願いします。

平成31年度事業計画について

所長から資料5に基づき説明（内容省略）

主な事業ごとの目標指数について

所長から資料6に基づき説明（内容省略）

<座長> サークル文化祭の観覧をきっかけに新規に会員が増えたサークルの割合を目標値とすることについて自主サークルの方はいかがでしょうか。

<委員> 地域で声を掛けながらちらしの配布を個々に丁寧に行いました。特に地域のグループでリーダー的な方に先ず声を掛けました。

<委員> サークル文化祭のプログラムにサークルが行う無料の講習会のちらしを挟み込んで配布しました。この効果かどうかわかりませんが、新規会員を得ました。

<副座長> 目標に定めることで、他人事から自分事に変わるきっかけになると思います。

<座長> 目標については了承ということでしょうか。自分たちが汗をかくということになると思いますが、練馬区の生涯学習をここから発信していくということが大切だと思います。ここでの取り組みが母体となって波及していくということもありますので、どうぞよろしくお願いいたします。  
他になければ、次に移ります。

<所長> その他として、報告いたします。

前回の運営懇談会で、令和3年から4年にかけて休館を伴う大規模改修を予定している旨、お話をさせていただきました。これから実際の設計作業に入ります。前回ご説明しました状況からまだ進捗がございません。お伝えできる段階になりましたら、お知らせいたします。来年度（令和2年度）いっぱい、生涯学習センターで使えなくなる部分はございません。いままでどおり、ご利用いただきたくお願いいたします。工期（休館期間）については、まだ決まっておりません。

<座長> 令和3年度には、休館による影響があります。各事業の実施にあたっては、視野に入れて計画していただくようお願いいたします。

予定の議題は以上ですが、ご出席の委員の皆さんから一言ずつお願いしたいと思います。

<委員> 仕事で、講師派遣を行っています。特に元外交官の派遣に関わるなかでの最近の事例からご紹介します。

神奈川県大和市では、集英社、小学館などが入る指定管理者が生涯学習センターの運営を請け負っています。そこからの依頼で外交をテーマとした連続5回の講座を行いました。毎回40～50名の参加者が熱心にメモを取って参加されていたことが印象的でした。

また、外務省の講師派遣制度というものがあり、予算が限られる自治体が活用していて、ニュースの外交交渉に登場した元外交官なども講師として派遣されている例があります。主催者側の意欲が伝われば、例え謝礼が少なくとも人が動いてくれる好例としていくつか見えています。

今日は、大学のインターン生のお二人が参加されています。我々は、どんどん歳をとっていくなかで、我々の経験を若い人にいろいろ伝えていきたいと思います。そのためには、おまつりなどのイベントに若い人を取り込んでいく必要があると思います。

<委員> 本日の配布資料に文化団体協議会の事業のちらしがありませんが。

<所長> 今年度のちらしは、現在作成中です。昨年度のものはすべて捌けてしまい在庫がございませんでした。ご了承ください。

<委員> 5年に一度、文化センターを会場に発表会をしています。令和3年が第60回の記念行事となり、来年度は会場申込のため、調整をお願いします。

<委員> 生涯学習センターで練習しています。センターの事業が入ってしまうと教室が使えません。他の区立施設をあたりますが、確保しにくくなっている状況があります。

<委員> 事業では口コミの重要性をあらためて認識しました。

<委員> 区の健康に関する行事に参加しましたが、その中で、生涯学習センターの事業のちらしもいただきました。事業報告のなかで、オープンキャンパスの参加人数が少ないことが気になりました。興味があっても、一緒に行く人がいないとなかなか行けないのではと思います。そこで、地域で活動しているグループ内で声かけし、一緒にいきませんかというアクションを起こしていかないとつながらないと思います。ターゲット層に合うようにちらしの配布先にも工夫が必要だと思います。ちらしづくりやPR方法で人出が必要であれば、協力は惜しみません。

<委員> 生涯学習センターでの事業実施では、大泉、石神井地区からは距離がネックになることもあると思います。

<委員> 区の後援事業で将棋大会を行っています。区から区内の学校にポスターを配布していますが、参加に結びついていないという実態があります。ちらし、ポスター配布後どうするかということが共通認識として今後ご相談させていただきたいと思います。

一方、文化団体や自主サークルに入っていない地域の草の根的なサークル活動のとりまとめも地域の問題として今後必要なのではと思います。

<委員> 事業報告で大学公開講座があります。大学の授業を一般区民が受けられるということで当初は斬新な事業として始まったものと思います。ところが、現在では、各大学が社会人向けの講座を開講しています。公開講座は、大学の先生とのつながりはあっても学生とのつながり、若い人との接点がありません。今後も公開講座は

継続されるのでしょうか。地域の大学とのつながりについて方向性はどのようなのでしょうか。大学独自に社会人向け講座が充実しているのであれば、その役割は終えたといえるのではないかと思います。

<座長> 我々運営懇談会委員は、生涯学習をどのように広げていくかを考えていく立場です。そこで、傍聴者は発言できませんが、大学生のインターンですので、一言お願いすることに委員の皆さんのご賛同をいただけますか。

- 賛同 -

<インターン> 区内在住のため、興味深くお話を聞かせていただきました。これまで地域への活動に関わることがあまりなかったので、様々な活動を知り、今後は目を向けたいと思いました。

<インターン> 近隣市に在住のため、練馬区にはアクセスがよく、親しんできました。これまで地域とのかかわりが希薄になっていることが気になり、生涯学習事業に興味を持ちました。大学では、社会教育主事の勉強もしています。さまざまな異なる立場の視点を上手く交流させてよりよい地域との関わりができればと考えています。

<座長> ありがとうございます。これを機会にいろいろとご参加いただけたらと思います。それでは、副座長からお願いします。

<副座長> 人間は赤ちゃんから大きくなり、中学生で反抗期を迎え、大人になり深まっていくことが成長と言えます。生涯学習センターに置き換えると、大きくなるとは、若い人を巻き込んでいくこと、ネットワークを広げること。深まるとは宣伝方法、セミナーのシリーズ化などもあるでしょう。反抗期はありませんが、これを改革とすれば図書館併設を強みとして生かすこともあると思います、生涯学習センターはまさに知の泉だと思います。この知の泉を「みどりの風吹くまち」の一翼をどう担えるかどうか、いろいろな人たちがその風を感じられるようにしていくにはどうしたらよいのか。皆さんで考えて侃々諤々議論出来たらいいなと思います。これからもよろしくお願いします。

<座長> いろいろなご意見をありがとうございました。皆さんのご協力で今後とも盛り上げていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いします。最後に課長からお願いします。

<課長> 大学の公開講座についてのご指摘のとおり当初の役割とは状況が変わってきたものと認識しております。副座長から生涯学習センターの成長についてのお話もありましたが、生涯学習センターの事業は過渡期を迎えています。練馬Enカレッジが協働推進課に移管することは生涯学習センターで始めた事業が育っていったと言えます。今までも生涯学習センターで始めた事業が育ち、手を離れていった例は多くあります。そこで、身軽になった生涯学習センターは今後何をしていくのかというところで、我々が知恵を絞って考えていかなければならないという時期に入っています。三大学との連携は今では生涯学習センターだけではなく、区との関わりになっています。今後の在り方については現在検討を進めており、固まった段階で皆様にお示したいと思います。